



## 物理端末および仮想端末の実装： Cisco ASR 9000 シリーズ ルータ

ラインテンプレートは、物理端末回線および仮想端末回線（VTY）を介した着信および送信転送の標準属性の設定を定義します。VTYプールを使用して、さまざまな仮想端末回線にテンプレートの設定を適用します。



(注) VTYプールを作成または変更する前に、グローバルコンフィギュレーションモードで **telnet server** コマンドを使用して、Telnetサーバをイネーブルにします。詳細については、*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router IP Addresses and Services Configuration Guide* および *Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router IP Addresses and Services Command Reference* を参照してください。

ここでは、Cisco IOS XR ネットワークでの物理端末および仮想端末の実装に必要な新規および改訂されたタスクについて説明します。

Cisco IOS XR ソフトウェア上での物理端末および仮想端末に関する情報とこのモジュールに記載されている端末サービスコマンドの詳しい説明については、[関連資料](#)、(13 ページ) を参照してください。設定作業の実行中に出てくるその他のコマンドのマニュアルを特定するには、オンラインで『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router Commands Master List*』内を検索してください。

表 1: 物理テンプレートおよび仮想テンプレート実装の機能履歴：Cisco IOS XR ソフトウェア

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	この機能が導入されました。

このモジュールの構成は、次のとおりです。

- [物理端末と仮想端末を実装するための前提条件](#)、2 ページ
- [物理端末および仮想端末の実装について](#)、2 ページ

- [Cisco IOS XR ソフトウェアでの物理および仮想端末の実装方法, 5 ページ](#)
- [物理および仮想端末の実装の設定例, 10 ページ](#)
- [その他の参考資料, 12 ページ](#)

## 物理端末と仮想端末を実装するための前提条件

適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。このコマンドリファレンスには、各コマンドに必要なタスク ID が含まれます。ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できないと考えられる場合、AAA 管理者に連絡してください。

## 物理端末および仮想端末の実装について

物理端末および仮想端末を実装するには、この項の内容を理解しておく必要があります。

### ライン テンプレート

Cisco IOS XR ソフトウェアでは次のライン テンプレートが使用できます。

- デフォルト ライン テンプレート : 物理および仮想端末回線に適用されます。
- コンソール ライン テンプレート : コンソール回線に適用されます。
- ユーザ定義ライン テンプレート : 仮想端末回線の範囲に適用できます。

### ライン テンプレート コンフィギュレーション モード

ライン テンプレートの属性の変更は、ライン テンプレート コンフィギュレーション モードで行います。ライン テンプレート コンフィギュレーション モードに移行するには、グローバル コンフィギュレーション モードから **line** コマンドを実行し、変更するテンプレートを指定します。

**line** コマンドで設定できるライン テンプレートはオンライン ヘルプ機能 (?) を使って表示できます。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line ?
console    console template
default    default template
template   user defined template
```

**line** コマンドでテンプレートを指定すると、ルータはライン テンプレート コンフィギュレーション モードに移行し、指定したライン テンプレートに適用する端末属性を設定できます。この例

では、コンソールテンプレートを指定する方法とコンソールテンプレートのラインテンプレートコンフィギュレーションモードに移行する方法を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)#
```

ラインテンプレートコンフィギュレーションモードからは、次の端末属性設定コマンドを設定できます。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# ?

absolute-timeout      Set absolute timeout for line disconnection.
access-class           Filter connections based on an IP access list
accounting             Accounting parameters
authorization          Authorization parameters
clear                  Clear the uncommitted configuration
clear                  Clear the configuration
cli                     Set the behaviour of cli.
commit                 Commit the configuration changes to running
databits               Set the number of databits.
describe               Describe a command without taking real actions
disconnect-character   Define the disconnect character
do                     Run an exec command
escape-character       Change the current line template's escape character
exec-timeout           Set EXEC timeout
exit                   Exit from this submode
flowcontrol            Configure flow control.
interactive            Interactive behaviour
length                 Set number of lines on a screen.
login                  Line login configuration
no                     Negate a command or set its defaults
parity                 Set the parity used.
password               Specify the password for the user
pwd                    Commands used to reach current submode
root                   Exit to the global configuration mode
secret                 Provide a secure one way encrypted password
session-limit          Set the number of outgoing connections
session-timeout        Set interval for closing connection when there is no input traffic
show                   Show contents of configuration
stopbits               Set the stopbits used.
telnet                 Telnet protocol-specific configuration
timeout                Timeouts for the line
timestamp              To enable timestamp printing before each command.
transport              Define transport protocols for line
users                  Users characteristics
width                  Set width of the display terminal
```

## ラインテンプレートガイドライン

コンソールテンプレートの変更およびユーザ定義テンプレートの設定について、次のガイドラインが適用されます。

- ルータ上の物理端末回線（コンソールポート）のテンプレートは、ラインテンプレートコンフィギュレーションモードから変更します。グローバルコンフィギュレーションモードの **line console** コマンドを使って、コンソールテンプレートのラインテンプレートコンフィギュレーションモードへ移行します。
- 仮想回線のテンプレートは、**line template-name** コマンドでユーザ定義テンプレートを設定し、ラインテンプレートコンフィギュレーションからユーザ定義テンプレートの端末属性

を設定して、**vtty pool** コマンドを使って複数の仮想端末回線にテンプレートを適用することによって変更します。

コンソールテンプレートまたはいずれの仮想テンプレートにも定義されていない属性は、デフォルトテンプレートの属性となります。

デフォルトテンプレートのデフォルト設定については、『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Management Command Reference』の「Terminal Services Commands on Cisco ASR 9000 シリーズルータ」モジュールの項にラインテンプレート コンフィギュレーション モードのすべてのコマンドに関する記述があります。



(注) VTY プールを作成または変更する前に、グローバル コンフィギュレーション モードで **telnet server** コマンドを使用して、Telnet サーバをイネーブルにします。詳細については、*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router IP Addresses and Services Configuration Guide* および *Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router IP Addresses and Services Command Reference* を参照してください。

## 端末の識別

コンソールポート用の物理端末回線は、各コンソールポートが存在するアクティブまたはスタンバイルートプロセッサ (RP) 上での位置 (*rack/slot/module* の形式で表される) によって識別されます。仮想端末の場合、物理的な位置は適用できません。Cisco IOS XR ソフトウェアは、VTY 接続が確立された順序に従って VTY ID を VTY に割り当てます。

## VTY プール

各仮想ラインは、共通のラインテンプレート コンフィギュレーションを使用する接続プールのメンバーです。複数の VTY プールが存在する場合があります、それぞれ、VTY プールに設定されているとおりに、定義された数の VTY が含まれます。Cisco IOS XR ソフトウェアは、デフォルトで次の VTY プールをサポートします。

- デフォルトの VTY プール：デフォルトの VTY プールは、5 つの VTY (VTY 0 ~ 4) で構成され、それぞれデフォルトラインテンプレートを参照します。
- デフォルトの障害マネージャ プール：デフォルトの障害マネージャ プールは、6 つの VTY (VTY 100 ~ 105) で構成され、それぞれデフォルトラインテンプレートを参照します。

デフォルトの VTY プールおよびデフォルトの障害マネージャ プールのほかに、デフォルトテンプレートまたはユーザ定義テンプレートを参照できる、ユーザ定義の VTY プールを設定することもできます。

VTY プールを設定する際は、次のガイドラインに従ってください。

- デフォルト VTY プールの VTY の範囲は、VTY 0 から開始し、5 つ以上の VTY を含む必要があります。

- 0 ～ 99 の範囲の VTY は、デフォルトの VTY プールを参照できます。
- 5 ～ 99 の範囲の VTY は、ユーザ定義の VTY プールを参照できます。
- 100 以上の範囲の VTY は、障害マネージャの VTY プール用に予約されています。
- 障害マネージャ VTY プールの VTY の範囲は、VTY 100 から開始し、6 つ以上の VTY を含む必要があります。
- 1 つの VTY がメンバになることができる VTY プールは 1 つだけです。別のプールにすでに含まれる VTY を含めると、VTY プールの設定は失敗します。
- VTY プールを設定するときにアクティブな VTY プールからアクティブな VTY を削除しようとすると、その VTY プールの設定は失敗します。

# Cisco IOSXR ソフトウェアでの物理および仮想端末の実装方法

## テンプレートの変更

ここでは、コンソールラインテンプレートとデフォルトラインテンプレートの端末属性を変更する方法について説明します。設定した端末属性によって、指定したテンプレートのテンプレート設定が変更されます。

### 手順の概要

1. **configure**
2. **line {console | default}**
3. ラインテンプレート コンフィギュレーションモードでコマンドを使用して、特定のテンプレートの端末属性設定を設定します。
4. 次のいずれかのコマンドを使用します。
  - **end**
  - **commit**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router# configure	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	<p><b>line {console   default}</b></p> <p>例：</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console</pre> <p>または</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default</pre>	<p>指定された回線テンプレートの回線テンプレート コンフィギュレーション モードが開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>console</b> : コンソールテンプレートのラインテンプレート コンフィギュレーション モードが開始されます。</li> <li>• <b>default</b> : デフォルトテンプレートのラインテンプレート コンフィギュレーション モードが開始されます。</li> </ul>
ステップ 3	<p>ラインテンプレート コンフィギュレーションモードでコマンドを使用して、特定のテンプレートの端末属性設定を設定します。</p>	—
ステップ 4	<p>次のいずれかのコマンドを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>end</b></li> <li>• <b>commit</b></li> </ul> <p>例：</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# end</pre> <p>または</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# commit</pre>	<p>設定変更を保存します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>end</b> コマンドを実行すると、変更をコミットするように要求されます。</li> </ul> <pre>Uncommitted changes found, commit them before exiting(yes/no/cancel)? [cancel]:</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <b>yes</b> と入力すると、実行コンフィギュレーション ファイルに変更が保存され、コンフィギュレーションセッションが終了して、ルータがEXECモードに戻ります。</li> <li>◦ <b>no</b> と入力すると、コンフィギュレーションセッションが終了して、ルータがEXECモードに戻ります。変更はコミットされません。</li> <li>◦ <b>cancel</b> と入力すると、現在のコンフィギュレーションセッションが継続します。コンフィギュレーションセッションは終了せず、設定変更もコミットされません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行コンフィギュレーションファイルに設定変更を保存し、コンフィギュレーションセッションを継続するには、<b>commit</b> コマンドを使用します。</li> </ul>

## VTY プールの作成および変更

ここでは、VTY プールの作成および変更手順について説明します。

VTY プールを参照するためにデフォルトのラインテンプレートを設定している場合は、[ステップ 3](#)、(7 ページ) から [ステップ 5](#)、(8 ページ) までを省略できます。

## 手順の概要

1. **configure**
2. **telnet {ipv4 | ipv6} server max-servers limit**
3. **line template template-name**
4. ラインテンプレート コンフィギュレーションモードでコマンドを使用して、特定のラインテンプレートの端末属性設定を設定します。
5. **exit**
6. **vty-pool {default | pool-name | eem} first-vty last-vty [line-template {default | template-name}]**
7. 次のいずれかのコマンドを使用します。
  - **end**
  - **commit**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router# configure	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>telnet {ipv4   ipv6} server max-servers limit</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# telnet ipv4 server max-servers 10	許可できる Telnet サーバの数を指定します。最大で 100 台までの Telnet サーバを許可できます。  (注) デフォルトでは許可されている Telnet サーバはありません。Telnet サーバを使用できるようにするには、このコマンドを設定する必要があります。
ステップ 3	<b>line template template-name</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line template 1	ユーザ定義のテンプレートのラインテンプレート コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	ラインテンプレート コンフィギュレーションモードでコマンドを使用して、特定のラインテンプレートの端末属性設定を設定します。	—

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<p><b>exit</b></p> <p>例 :</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# exit</pre>	<p>ラインテンプレート コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。</p>
ステップ 6	<p><b>vtty-pool {default   pool-name   eem} first-vty last-vty [line-template {default   template-name}]</b></p> <p>例 :</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# vtty-pool   default 0 5 line-template default または RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# vtty-pool   pool1 5 50 line-template templatel または RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# vtty-pool   eem 100 105 line-template templatel</pre>	<p>VTY プールを作成または変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>line-template</b> キーワードを使用してラインテンプレートを指定しないと、VTY プールがデフォルトのラインテンプレートになります。</li> <li>• <b>default</b> : デフォルトの VTY プールを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ デフォルトの VTY プールは、VTY 0 から開始し、5 つ以上の VTY を含む必要があります (VTY 0 から 4 まで)。</li> <li>◦ デフォルトの VTY プールのサイズを変更するには、デフォルトの VTY プールを構成する範囲を大きくします。</li> </ul> </li> <li>• <b>pool-name</b> : ユーザ定義の VTY プールを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ ユーザ定義のプールは、デフォルトの VTY プールがサイズ変更されているかどうかによりますが、最低でも VTY 5 から始まるようにします。</li> <li>◦ デフォルトの VTY プールの VTY の範囲が変更されている場合は、デフォルトのラインテンプレートに含まれない範囲の最初の値を使用してください。たとえば、デフォルトの VTY プールの VTY の範囲が 10 個の VTY が含まれるよう変更されている場合は (VTY 0 ~ 9)、ユーザ定義の VTY プールの範囲の値は VTY 10 から始まるようにします。</li> </ul> </li> <li>• <b>eem</b> : Embedded Event Manager プールを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ デフォルトの Embedded Event Manager VTY プールは、VTY 100 から開始し、6 つ以上の VTY を含む必要があります (VTY 100 から 105 まで)。</li> </ul> </li> <li>• <b>line-template template-name</b> : ユーザ定義のテンプレートを参照する VTY プールを設定します。</li> </ul>
ステップ 7	<p>次のいずれかのコマンドを使用します。</p>	<p>設定変更を保存します。</p>



	コマンドまたはアクション	目的
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>end</b></li> <li>• <b>commit</b></li> </ul> <p>例：</p> <pre>RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# end または RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# commit</pre>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>end</b> コマンドを実行すると、変更をコミットするように要求されます。</li> </ul> <pre>Uncommitted changes found, commit them before exiting(yes/no/cancel)? [cancel]:</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <b>yes</b> と入力すると、実行コンフィギュレーションファイルに変更が保存され、コンフィギュレーションセッションが終了して、ルータが EXEC モードに戻ります。</li> <li>◦ <b>no</b> と入力すると、コンフィギュレーションセッションが終了して、ルータが EXEC モードに戻ります。変更はコミットされません。</li> <li>◦ <b>cancel</b> と入力すると、現在のコンフィギュレーションセッションが継続します。コンフィギュレーションセッションは終了せず、設定変更もコミットされません。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行コンフィギュレーションファイルに変更を保存し、コンフィギュレーションセッションを継続するには、<b>commit</b> コマンドを使用します。</li> </ul>

## 端末および端末セッションのモニタリング

ここでは、物理回線や端末回線に使用できる **show EXEC** コマンドを使用して、端末や端末セッションをモニタリングする方法について説明します。



(注) コマンドは任意の順序で入力できます。

### 手順の概要

1. (任意) **show line [aux location node-id | console location node-id | vty number]**
2. (任意) **show terminal**
3. (任意) **show users**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>show line [aux location <i>node-id</i>   console location <i>node-id</i>   vty <i>number</i>]</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router# show line	(任意) 端末回線の端末パラメータを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>show line aux location <i>node-id</i> EXEC</b> コマンドを実行すると、補助回線の端末パラメータが表示されます。</li> <li>• <b>show line console location <i>node-id</i> EXEC</b> コマンドを実行すると、コンソールの端末パラメータが表示されます。               <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ <b>location <i>node-id</i></b> キーワードと引数に対しては、補助ポートまたはコンソールポートがあるルート プロセッサ (RP) の場所を入力します。</li> <li>◦ <b><i>node-id</i></b> 引数は、<i>rack/slot/module</i> という形式で入力します。</li> </ul> </li> <li>• <b>show line vty <i>number</i> EXEC</b> コマンドを実行すると、指定した VTY の端末パラメータが表示されます。</li> </ul>
ステップ 2	<b>show terminal</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router# show terminal	(任意) 現在の端末回線の端末属性設定を表示します。
ステップ 3	<b>show users</b>  例： RP/0/RSP0/CPU0:router# show users	(任意) ルータのアクティブ回線に関する情報を表示します。

## 物理および仮想端末の実装の設定例

コンソール テンプレートの変更：例

この設定例では、コンソールラインテンプレートに対する端末属性の設定を変更する方法を示します。

```
line console
  exec-timeout 0 0
  escape-character 0x5a
  session-limit 10
  disconnect-character 0x59
```

```
session-timeout 100
transport input telnet
transport output telnet
```

この設定例では、次の端末属性がコンソールラインテンプレートに適用されます。

- 端末セッションの EXEC タイムアウトは 0 分、0 秒に設定されます。EXEC タイムアウトを 0 分、0 秒に設定すると、EXEC タイムアウト機能がディセーブルになります。したがって、端末セッションの EXEC セッションがタイムアウトになることはありません。
- エスケープ文字は 0x5a 16 進数値に設定されます (0x5a 16 進数値は「Z」の文字に変換されます)。
- 発信端末セッションのセッション制限は、10 接続に設定されます。
- 切断文字は 0x59 16 進数値に設定されます (0x59 16 進数文字は「Y」の文字に変換されます)。
- 発信端末セッションのセッションタイムアウトは、100 分 (1 時間と 40 分) に設定されます。
- 着信端末セッションに許可されるトランスポートプロトコルは、Telnet です。
- 発信端末セッションに許可されるトランスポートプロトコルは Telnet です。

コンソールラインテンプレートの端末属性がコンソールに適用されることを確認するには、次のように **show line** コマンドを使用します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show line console location 0/0/CPU0

Tty          Speed      Modem  Uses   Noise  Overruns      Acc I/O
* con0/0/CPU0  9600      -      -      -      0/0          -/-

Line con0_0_CPU0, Location "Unknown", Type "Unknown"
Length: 24 lines, Width: 80 columns
Baud rate (TX/RX) is 9600, 1 parity, 2 stopbits, 8 databits
Template: console
Config:
Allowed transports are telnet.
```

### デフォルトテンプレートの変更 : 例

この設定例では、デフォルトラインテンプレートに対する端末属性を無効にする方法を示します。

```
line default
exec-timeout 0 0
width 512
length 512
```

この例では、次の端末属性によってデフォルトラインテンプレートのデフォルト端末属性設定が無効になります。

- 端末セッションの EXEC タイムアウトは 0 分、0 秒に設定されます。EXEC タイムアウトを 0 分、0 秒に設定すると、EXEC タイムアウト機能が無効になります。したがって、端末セッションの EXEC セッションがタイムアウトになることはありません (デフォルトラインテンプレートに対するデフォルトの EXEC タイムアウトは 10 分です)。

- デフォルト テンプレートを参照する端末の画面幅は、512 文字に設定されます（デフォルト ライン テンプレートのデフォルト幅は 80 文字です）。
- 長さ、つまりデフォルト テンプレートを参照する端末に一度に表示される行数は、512 行に設定されます（デフォルト ライン テンプレートのデフォルト長さは 24 行です）。

#### デフォルト VTY プールを参照するユーザ定義テンプレートの設定：例

この設定例では、VTY 用のユーザ定義ライン テンプレート（この例では `test` という名前）を設定し、デフォルト VTY プールを参照するようにライン テンプレート テストを設定する方法を示します。

```
line template test
  exec-timeout 100 0
  width 100
  length 100
  exit
vty-pool default 0 4 line-template test
```

#### ユーザ定義の VTY プールを参照するユーザ定義テンプレートの設定：例

この設定例では、VTY 用のユーザ定義ライン テンプレート（この例では `test2` という名前）を設定し、ユーザ定義の VTY プール（この例では `pool1` という名前）を参照するようにライン テンプレート テストを設定する方法を示します。

```
line template test2
  exec-timeout 0 0
  session-limit 10
  session-timeout 100
  transport input all
  transport output all
  exit
vty-pool pool1 5 50 line-template test2
```

#### 障害マネージャの VTY プールを参照するユーザ定義テンプレートの設定：例

この設定例では、VTY 用のユーザ定義ライン テンプレート（この例では `test3` という名前）を設定し、障害マネージャの VTY プールを参照するようにライン テンプレート テストを設定する方法を示します。

```
line template test3
  width 110
  length 100
  session-timeout 100
  exit
vty-pool eem 100 106 line-template test3
```

## その他の参考資料

ここでは、Cisco IOS XR ソフトウェアでの物理および仮想端末の実装に関する参考資料について説明します。

## 関連資料

関連項目	参照先
Cisco IOS XR 端末サービス コマンド	『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Management Command Reference』の「Terminal Services Commands on Cisco ASR 9000 シリーズ ルータ」モジュール
Cisco IOS XR コマンド マスター インデックス	『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router Commands Master List』
開始にあたっての情報：Cisco IOS XR ソフトウェア	Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router Getting Started Guide
ユーザ グループとタスク ID に関する情報	『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Security Configuration Guide』の「Configuring AAA Services on Cisco ASR 9000 シリーズ ルータ」モジュール

## 標準

標準	タイトル
この機能によってサポートされる新しい標準または変更された標準はありません。またこの機能による既存標準のサポートに変更はありません。	—

## MIB

MIB	MIB のリンク
—	Cisco IOS XR ソフトウェアを使用して MIB を検索およびダウンロードするには、 <a href="http://cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml">http://cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml</a> にある Cisco MIB Locator を使用し、[Cisco Access Products] メニューからプラットフォームを選択します。

**RFC**

RFC	タイトル
この機能によりサポートされた新規 RFC または改訂 RFC はありません。またこの機能による既存 RFC のサポートに変更はありません。	—

**シスコのテクニカル サポート**

説明	リンク
シスコのテクニカルサポート Web サイトでは、製品、テクノロジー、ソリューション、技術的なヒント、およびツールへのリンクなどの、数千ページに及ぶ技術情報が検索可能です。Cisco.com に登録済みのユーザは、このページから詳細情報にアクセスできます。	<a href="http://www.cisco.com/en/US/support/index.html">http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</a>